

1 本年度の学校教育目標

「ふるさとを愛し 自らを高め 未来への道を切り拓く 八鹿青溪っ子の育成」

2 本年度の学校重点目標

①ふるさとの自然・人・文化に学び高柳を誇りに思う児童の育成 ②主体的に「生きる力」を育てる ③安全、安心な学校づくり
--

3 学校自己評価結果 (A 優れている B 良い C おおむね良好 D 要改善)

分野	評価項目・取組内容	本年度評価		
学校運営	開かれた学校づくり	学級だより、授業参観などにより、子どもたちの姿を発信することができるか。	A 学校行事や授業参観を通して、たくさんの方に児童のがんばりや教育活動の様子を公開できた。学級通信や諸連絡等がオンラインで配信できるようになり、随時児童の様子をカラー写真で保護者に伝えることができた。そして今年もHPを通して本校の教育活動を頻りに発信することができた。	
		ふるさと学習や地域の人材活用に努めているか。	A 地域の方からのたくさんの協力のもと、本校では様々なふるさと学習が実践できている。本年度は新たな取組として浅黄豆の栽培や書初め指導などが実施できた。今後も継続した取組を行うとともに、学校を拠点とした地域との協働を目指した活動を探索していきたい。	
	危機管理体制の整備	家庭・地域と連携し、児童の防災・安全教育(避難訓練等)に取り組んでいるか。	B 定期的に行われている避難訓練では児童への意識づけを強化し、真剣に取り組めるよう工夫した。また2学期終業式には高柳駐在さんの話を聞いたり、1.17追悼集会ではアース隊員の話の聞いたりし、普段から児童に防災や安全に対する意識を高める学習活動を実施できた。	
教職員の資質向上と勤務の適正化	教職員の資質能力向上に努めているか。	A 新しい時代の流れがあり、それに合わせ本年度から新しい教科書となったが、全教職員工夫して授業を進めている。ICTを軸に研修を行ってきたが、研究授業・事後研究・スキルアップ研修など教職員が一丸となって資質向上に努めることができた。今後お互いに切磋琢磨し、情報を共有しながら様々な能力の向上を目指したい。		
	勤務時間の適正化に努めているか。	B 本年度も協和の日等を有効活用し、計画的に業務に取り組んでおり、長時間の超過勤務をする教職員はほほいない。HKD(はよ帰ろうデー)の取り組みもしっかりと定着できている。しかしどうしても学期末や行事前などは退勤が遅くなることもある。今後も業務の精選・軽減をはかれるよう努める。		
基礎基本の定着と個に応じた学習指導の充実	授業の工夫や学習規律の確立により、主体的な学び、基礎基本の定着に取り組んでいるか。	B 各学年工夫して児童一人一人が熱心に自主学習に取り組む体制を整えている。また本年度導入された電子黒板等をはじめ様々なICT機器を効果的に活用することにより、児童が意欲的に学習に向かうことができています。10分間の学習タイムも毎日の積み重ねとして力になっている。		
	特別支援の観点から、個に応じた指導に努めているか。	A 教育支援委員会が定期的に開催され、指導体制の整備も可能な範囲で行っている。複数体制で指導することで、個に応じた指導を行うよう努めている。特別支援学級児童については保護者と連携を図りながら、個々の思いに寄り添った指導になるよう心がけている。		
	様々な場面でICTを工夫して活用し、その特性を生かした学習活動を展開しているか。	A 大型モニターやタブレットの使用が日常化しており、様々な学習活動で効果的に活用できている。児童にとっても身近な存在となったICT機器であるが、アナログの大切さも忘れず、今後も効果的な活用ができるよう研修を深めていきたい。		
	対話を育み考えを深めさせる授業づくりに取り組んでいるか。	B 一昨年度の研修が生きており、個人からペア・グループでの対話の機会が意識して授業中に設定されている。ただ、学年に応じた話し合い等は教えなければなかなか身につけにくいので、対話の質の向上を目指して、授業づくりを工夫していく必要がある。		
学習指導	読書活動の推進	読書活動の推進に取り組んでいるか。	B 図書室の環境整備や委員会活動での読書の啓発等がしっかり行われていることによって、子供たちは積極的に図書室を利用することができている。また、「おすすめ20冊」の取組やPTAによる図書寄贈も児童の読書活動をさらに活発にしている。ただ、家庭での読書習慣が課題で啓発が必要である。	
	道徳教育の充実	道徳の授業の充実を図り、全教育活動の中で道徳性の育成や道徳実践力を育むよう努めているか。	B 兵庫県道徳副読本を使った親子読書を実施し、保護者から児童と考えを共有するなどよい機会となった等の意見がたくさん寄せられた。今年度は職員研修の都合で道徳参観日が行われなかったため、来年度は保護者への道徳の授業公開を行いたい。	
	人権教育の推進	身近な人権課題に取り組むことで、自尊感情を育み、人権意識を高めるよう努めているか。	B 人権作文や標語づくりに取り組む機会を設け、12月の人権集会においてそれらの作品を紹介することで本年度も人権について全校上げて考える活動を行った。また11月の生活目標「いいとこみつけ」ではそれぞれの学年にあった「友達の良いところ見つけ」の取り組みが行われた。	
	外国語教育の取組	ALTや英語教育サポーターを活用し、外国語教育・国際理解教育の推進に努めているか。	A 打ち合わせを行う時間がなかなか取れない中でも、担任はALTやJTEの先生と協力し、臨機応変に楽しい外国語の授業を創っている。授業後には児童が楽しそうに学習した会話を使って話す姿が見られ、授業の充実ぶりを感じる。また、低学年もALTとの楽しい体験活動を年間通して行っている。	
	体力の向上と健康への習慣づくりの推進	基礎体力の向上を図り、心身の健康な発達を促すよう努めているか。	B 朝の「パワーアップ体操」や体育の時間に行う「やっばーアップ体操」などの活動を通して姿勢を保持できるようになってきている。引き続き基礎体力の向上を行ってほしい。本年度は3・4年生が体力アップサポーターとして中学校体育の教員に指導をしていただき、より専門的な体育の学習を行うことができた。	
	生活指導・その他	基本的生活習慣の確立	あいさつ、返事、くつそろえ、掃除等ができるように指導しているか。	B 挨拶については個人差があるが、声が小さかったり、そもそも挨拶できなかつたりする子もいるので、継続的な指導が必要である。靴そろえに関しては下駄箱の靴がいつもかかたがそろっており気持ちがいよいよ、掃除も時間いっぱい頑張る姿が見られる。
			早寝・早起き・朝ごはんや歯と口の健康等、基本的生活習慣が定着するよう指導しているか。	A 生活アンケートによるとほとんどの児童が規則正しい生活ができているが、中には遅くまで起きていたり、ゲーム・スマホ等を長時間使う児童も見られたりするので、保護者に向けさらなる啓発が必要である。歯の健康についての取り組みにより、歯磨きへの意識付けが定着しつつあるので継続できればいいと考える。
お互いを認め合ういじめのない集団づくり		一人一人を大切にしたい人間関係づくり、学級づくりに取り組んでいるか。(特別活動の取り組みも含む)	B 係活動や当番活動、学級会等児童が自主的に活動できる場を大切に学級経営を行っている。問題行動等においては早期発見・解決を目指し、すぐにチームを結成し解決方法を考えることができています。個から集団、集団から個を見ることを大切にしながら、今後もアンテナを高く児童の些細なサインを見逃さないよう努めていきたい。	
子どもの内面理解に基づく指導		子どもの人権を尊重し、アンケートを活用した体罰に頼らない心の通う生活指導に努めているか。	A 日々生活する中で様々なトラブルは起こるが、そのたびに教師は児童によりそい丁寧な指導を心がけている。また、毎月のアンケートを活用し、担任を中心に様々な事象の早期発見・早期対応ができている。	
家庭・地域との連携	家庭と連携して、そうあんくんの日(グッドメディア)に取り組んでいるか。	B 「そうあんくんの日」の取組について、保護者のコメントから、お手伝いや読書を頑張っている様子うかがえる。ただ、グッドメディアに関しては家庭での取り組みに差があるように感じる。家庭での協力を得るために、継続した啓発が必要である。		
連携教育	こども園と小の接続教育、小中一貫教育(自主学習など)の充実に努めているか。	A 教員がこども園に行き園児の実態把握を行ったり、1・5年生が七夕集会や55交流など交流活動をしたりすることで、未就学児の様子がよくわかった。中学校登校では6年生が中学校生活に対する不安を取り除くことができています。		

4 総合的な学校関係者評価

・授業や運動会を見せていただき、子どもたちが意欲的に学習や活動に参加していることがよく分かった。先生方の日頃の熱心な指導のおかげだと感じている。高柳地区ではこれまでも学校と保護者、地域が協力し合って子どもたちの成長を支えてきた。これからもいっそう連携を深めながら、子どもたちにより教育環境を与えていきたいと思う。
 ・ICTの活用にも熱心に取り組んでおられるのは、これからの子どもたちには大切なことだと感じる。一方、デジタルばかりになってしなうことには不安もある。アナログの良さも大切にしていってほしい。

5 評価項目ごとの学校関係者評価

学校自己評価の適切さ
<ul style="list-style-type: none"> ・学校通信の配布について、地域に負担をかけている面もあるが、楽しみにしておられる方もいるので、回覧ではなく従来通り全戸配布という形で学校の様子や子どもの作文・意見などを地域に知らせていくべきと思われる。 ・学校からの連絡はデジタルで、そのほかの連絡は紙で配布されているが、スマホ内のデータも雑多にならず、必要な文章が探しやすい。また、学級通信など紙面がカラーで配布されるので様子がよくわかり、父母どちらにも配布されるので、父親も目にする機会が増えた。今後も継続していただきたい。 ・学校で地域の方々から協力いただきたいことがあった場合、地域コーディネーターのような役割を高柳自治協議会が請け負ってくださっていることは大変ありがたい。自治協議会には今後も地域学習をはじめ、地域に根差した学校づくりにご協力いただきたい。 ・防災安全学習について、このカテゴリーは重要視していただきたい。防災の意識の育成は昨今重要な課題である。学校教育でも、いざというときに生き残れるすべを知っている子どもを育ててほしい。将来的には南海トラフなどが起こった時、どうやって自分の身を守るかを判断する力、災害対応力を育ててほしい。 ・勤務の適正化について、高柳小学校の職員は遅くまで残っていないようだ。よいことである。
<ul style="list-style-type: none"> ・2年間のICTの研究の成果として、子どもたちはとても上手にICT機器を使っており感心する。しかしパソコンばかりではいけないと考える。計算問題や漢字書き取りなど、書くことで覚えることもある。もちろんICT機器を使えることは必要だが、特に小学校の間は書くことを重視すべきである。漢字の筆順さらには文章力の育成、そういった基礎的な部分をしっかりと指導してほしい。また、手書きのよさというものがある。なんでもICT機器を使うのではなく、アナログの良さも教えてほしい。 ・昨今児童の体力低下が懸念されている。高柳小学校でもバス通学児童が多くなって小学生に必要な運動量が足りないのではないかと考える。マラソン大会の頃、マラソンカードに記録していく企画があり、朝から運動場を走っている子どもがたくさんいた。そういったような外で継続的に運動したり遊んだりするような企画があればよい。 ・現代の子たちは塾などで遊ぶ時間が少ない。しかし様々なスポーツを専門的に行っている子どもは多く、そういった子たちは逆に体力をつけていると考えられる。子どもの間で体力格差が生まれていることを懸念する。 ・親世代よりレベルアップしていると思われるのが英語力で、5・6年生ぐらいになると難しい英会話も行って、そのレベルの高さに驚く。 ・校区に遊ぶ場所が少ない。また、地区にある公園も老朽化により遊具が使用禁止になっている場所が多くなっている。そんな中、高柳の子たちは自ら遊びの場所を発掘して遊んでいる子もおり、そのような姿を見ると頼もしく感じることもある。
<ul style="list-style-type: none"> ・最近新しく高柳小校区に住まれた方が、高柳の子たちはとてもよく挨拶をしてくれると感動しておられる。また、数年前に比べても、挨拶してくれる子が増えた。地域の方と子どもたちが顔なじみになることによってずいぶん挨拶の声の大きさも変わったと感じている。 ・子ども同士のいじめめなものがあったとしても早期発見・早期解決で、最終的に友達との関係が「相手にしない」、「無視する」という風に関係を断絶することにならないよう指導してほしい。いったん口をきかない関係になると、解決が難しい。 ・そうあんくんの日、お手伝いをやらされている感がある。例えば何かこの日は一斉に活動することを決めて役に立つ活動をする日にすれば、子どもたちも「自分は役に立っている」という感情が芽生えるのではないかな。 ・そうあんくんの日の取り組みではないが、学校からの声掛けもあり、クリーン作戦に小学生がよく参加してくれるようになった。1・2年などが参加すると危ないのではないかな、また、参加者の手がとられてしまうのではないかなという懸念があったが、案外若い保護者の参加率が増え、地区としてもありがたいと考えている。